

名誉会員の紹介

第 532 回理事会（平成 20 年 1 月）の議を経て、下記の 2 君が平成 20 年 5 月 30 日第 51 回通常総会において名誉会員に推挙されました。
（会員番号順）



鶴 保 征 城 君 つる ほ せい しろ

昭和 41 年 3 月 大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了
昭和 41 年 4 月 日本電信電話公社（現 NTT）に入社
平成 元年 11 月 日本電信電話株式会社 ソフトウェア研究所長
平成 3 年 3 月 工学博士（大阪大学）
平成 5 年 6 月 NTT データ通信株式会社 取締役開発本部長
平成 7 年 6 月 同社 常務取締役技術開発本部長
平成 9 年 6 月 NTT ソフトウェア株式会社 代表取締役社長
平成 15 年 6 月 同社 取締役相談役
平成 16 年 10 月 独立行政法人情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリ
ング・センター 所長

本会関係略歴

- (1) 昭和 40 年 2 月入会
- (2) 理事（平成 3 年度～平成 4 年度）
- (3) 副会長（平成 7 年度～平成 8 年度）
- (4) 会長（平成 13 年度～平成 14 年度）
- (5) 学会誌編集委員会委員（昭和 51 年度～昭和 52 年度）
- (6) 論文誌編集委員会委員（昭和 54 年度～昭和 57 年度）
- (7) 調査研究運営委員会委員（平成 6 年度）
- (8) 情報規格調査会委員（平成 7 年度～平成 8 年度、および平成 13 年度～平成 14 年度）
- (9) アクレディテーション委員会委員（平成 12 年度～平成 13 年度）
- (10) 平成 11 年度フェロー
- (11) 平成 15 年度功績賞



益 田 隆 司 君 ます だ たか し

昭和 40 年 4 月 日立製作所中央研究所
昭和 49 年 8 月 同社 システム開発研究所主任研究員
昭和 52 年 4 月 筑波大学電子・情報工学系 講師
昭和 53 年 4 月 同大学電子・情報工学系 助教授
昭和 59 年 11 月 同大学電子・情報工学系 教授
昭和 63 年 3 月 東京大学理学部情報科学科 教授
平成 5 年 4 月 同大学大学院理学系研究科情報科学専攻 教授
平成 7 年 4 月～平成 9 年 3 月 同大学大学院理学系研究科長、理学部長を併任
平成 12 年 4 月 電気通信大学電気通信学部情報工学科 教授
平成 13 年 4 月 同大学副学長を併任
平成 14 年 4 月 同大学電気通信学部学部長を併任
平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月 国立大学法人電気通信大学学長

本会関係略歴

- (1) 昭和 40 年 10 月入会
- (2) 理事（平成元年度～平成 2 年度）
- (3) 監事（平成 13 年度～平成 14 年度）
- (4) 会長（平成 15 年度～平成 16 年度）
- (5) 学会誌編集委員会委員（昭和 50 年度～昭和 53 年度）
- (6) 計算機システムの制御と評価研究会主査（昭和 57 年度～昭和 58 年度）
- (7) オペレーティング・システム研究会主査（昭和 59 年度～昭和 60 年度）
- (8) 論文誌編集委員会委員（平成 3 年度～平成 6 年度）
- (9) 情報処理教育カリキュラム調査委員会委員（平成 5 年度～平成 9 年度）
- (10) 将来ビジョン検討委員会委員（平成 8 年度）
- (11) 情報規格調査会委員（平成 15 年度～平成 16 年度）
- (12) 学生会員育成委員会委員長（平成 17 年度～現在）
- (13) 昭和 47 年度、49 年度、51 年度、59 年度、平成 11 年度論文賞
- (14) 平成 11 年度フェロー
- (15) 平成 17 年度功績賞

平成19年度 功績賞

功績賞は、情報処理に関する学術または関連事業に対し特別の功労があり、その功績が顕著な会員に贈呈されます。

本年度の受賞者は関連規程に基づき、第533回理事会（平成20年3月）の議を経て、下記の3君に決定され第51回通常総会（平成20年5月30日）において、賞状および賞牌が授与されました。

（会員番号順）



旭 寛 治 君
あさひ ひろ はる

本会正会員旭寛治君は、永年にわたり情報処理分野の研究実用化に携わってこられました。1971年株式会社日立製作所に入社されて以来、汎用大型計算機およびスーパーコンピュータ向けのオペレーティングシステムの開発に従事され、性能および信頼性の向上に関する業績等を通じ、情報システムの高度化、適用範囲の拡大に大きく寄与されました。

同君は、本会理事（1999年～2000年）、本会副会長（2005年～2006年）を歴任され、本会運営の中核を担い、本会の発展に多大な貢献をされました。また、2001年から歴史特別委員会委員を務めるとともに、コンピュータ博物館実行小委員会主査として、本会Webサイトでのコンピュータ博物館の開設に尽力され、我が国のコンピュータの歴史を後世に伝える新しい試みの実現に寄与されました。この活動に対し、本会より学会活動貢献賞が授与されました。さらに、2003年以降、JABEE（日本技術者教育認定機構）審査員、同理事、本会ア krediyation委員会副委員長を歴任され、情報技術教育の水準向上に尽力されました。

現在はITプロフェッショナル委員会委員長として、高度IT人材の育成、情報処理技術者の社会的地位の向上に向けて、永年の産業界での経験に基づきさまざまな提言を行うなど精力的な活動を続けておられます。

以上のように、同君は情報処理分野の発展に大きく貢献しており、その功績はまことに顕著であります。



白 鳥 則 郎 君
しら とり のり お

本会正会員白鳥則郎君は、永年にわたり分散情報システム分野の研究に携わり、数多くの優れた業績をあげてこられました。特に、情報システムの知能化と進化さらに人間との共生へ向けた基本概念の提唱とその設計法に関する一連の研究は、先駆的な研究として世界的に高く評価されています。たとえば、「知識型システム設計法」、「やわらかいネットワーク」や「共生コンピューティング」の研究は先進的な分散情報システムの研究を先導し多大な貢献をされています。

また、これらの研究と教育経験を基に、「ネットワークシステムの基礎」（岩波書店）など多数の教科書を執筆して優れた教育を行い、優秀な人材を送り出しています。これまで、56名の博士と102名の修士の学位論文の指導教官を務められました。

さらに、同君は通産省・創造的ソフトウェア育成事業、日本学術振興会・未来開拓研究、総務省・戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）、そして日本学術振興会・科学研究費補助金などのプロジェクトリーダーを務め、分散情報システム分野のリーダーとして、現在もなお活躍されています。

本会においては、研究会主査、理事（平成8～9年）、副会長（平成16～17年）などを歴任されています。昭和60年に25周年記念論文賞、平成8年度論文賞などを受賞し、平成12年にはフェローの称号を授与されています。また国内では、平成14年に電子情報通信学会よりフェローを授与されています。国際的には、研究成果がIEEE TransactionやMagazineなどの著名な学術論文誌に掲載され、多くの国際会議の基調講演や招待講演に招かれています。さらに、IEEEやIFIP主催の分散情報システム分野で著名な国際会議の組織委員長やプログラム委員長を務められました。これらの功績により、平成10年にはIEEEフェローを授与されています。

以上のように同君が、国内外の学術の発展と研究・教育、ならびに本会の活動の発展に尽くした貢献は、まことに顕著であります。



安西 祐一郎 君

あん ざい ゆう いち ろう

本会正会員安西祐一郎君は、永年にわたり情報科学、認知科学の分野を中心に数多くの優れた研究業績をあげるとともに、情報科学分野において多くの優秀な人材の育成に努められました。特に、我が国における人工知能研究や認知科学分野の黎明期から、人間の認知、思考、学習、記憶などの情報処理過程の情報科学的方法論による解明、および人間と環境、コンピュータ、ロボットなどとのインタラクティブシステムの研究分野におけるパイオニアとして、さまざまな研究開発を推進され、情報科学と認知科学の新しい融合を先導されてきました。

また、同君は、さががけ21「情報と知」領域の研究統括、科学研究費特定領域「ITの深化の基盤を拓く情報学研究」領域総括、文部科学省リーディングプロジェクト「細胞・生体機能シミュレーションプロジェクト」統括マネージャ等として、情報科学と他分野の研究者たちが参加したプロジェクトをとりまとめられ、新しい学際的研究分野を開拓されました。

教育の分野では、慶應義塾大学および北海道大学において、30年以上にわたり情報処理分野の優秀な研究者・技術者を育成されただけでなく、現在は、慶應義塾の塾長、日本私立大学連盟会長、日本私立大学団体連合会会長、全私学連合代表等として、我が国の大学改革、教育研究の向上や国際化に大きく貢献されました。これらの功績により、フランス教育功労賞コマンドゥールを受賞されています。

本会においては、会長（平成17年～18年）、副会長（平成14年～15年）、理事（平成5年～6年）、調査研究運営委員長、領域委員長、研究会主査など数多くの役職を歴任されたとともに、会長として「学術と実務の2つの焦点」や「新しい多様な価値の創造を先導する場」としての魅力ある学会へと飛躍させ、学会の発展に多大な貢献をされました。

また、日本認知科学会会長、日本神経科学会理事、計測自動制御学会理事、日本学術会議会員などを歴任され、情報科学、認知科学、学際的研究分野の発展に大きく貢献されました。

以上のように同君が、我が国の情報処理に関する研究・教育、ならびに本会の発展に尽くした功績は、まことに顕著であります。

各賞表彰(概要)

詳細は Web サイト (http://www.ipsj.or.jp/01kyotsu/award/sho_index.html) をご覧ください

平成 19 年度論文賞の表彰

本賞の選考は、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続きに基づき、論文賞委員会(委員長 坂井修一)が、情報処理学会論文誌第 47 巻 10 号～第 48 巻 9 号および第 47 巻 SIG14 号～第 48 巻 SIG14 号に掲載された対象論文 554 編につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の 10 編が受賞候補論文として選定され、第 533 回理事会(平成 20 年 3 月)の承認を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、第 51 回通常総会(平成 20 年 5 月)において著者に表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

- 「産学連携に基づいたコードクローン可視化手法の改良と実装」
[論文誌 Vol.48, No.2, pp.811-822 (2007)]
肥後 芳樹君(正会員) 吉田 則裕君(学生会員)
楠本 真二君(正会員) 井上 克郎君(正会員)
- 「RNA Pseudoknotted Structure Prediction Using Stochastic Multiple Context-Free Grammar」
[論文誌 Vol.47, No.SIG17 (TBIO1), pp.12-21 (2006)]
Yuki Kato 君(正会員) Hiroyuki Seki 君(正会員)
Tadao Kasami 君(正会員)
- 「大量データストリームの類似探索手法」
[論文誌 Vol.48, No.SIG7 (TOD33), pp.1-14 (2007)]
藤原 靖宏君 櫻井 保志君(正会員)
山室 雅司君(正会員)
- 「On the Properties of Evaluation Metrics for Finding One Highly Relevant Document」
[論文誌 Vol.48, No.SIG14 (TOD35), pp.29-46 (2007)]
Tetsuya Sakai 君(正会員)
- 「送信者に認証機能を付加したブロードキャスト暗号とその応用」
[論文誌 Vol.47, No.11, pp.2992-3004 (2006)]
金沢 史明君(学生会員) 岡本 健君(正会員)
猪俣 敦夫君(正会員) 岡本 栄司君(フェロー)
- 「片方向リンクの存在するアドホックセンサネットワークにおける TDMA スロット割当て手法」
[論文誌 Vol.48, No.1, pp.342-355 (2007)]
神崎 映光君(正会員) 原 隆浩君(正会員)
西尾章治郎君(フェロー)
- 「感性語を媒介にした香りコミュニケーションモデル」
[論文誌 Vol.47, No.12, pp.3414-3422 (2006)]
坂内 祐一君(正会員) 石澤 正行君
重野 寛君(正会員) 岡田 謙一君(フェロー)
- 「Acquisition and Rectification of Shape Data Obtained by a Moving Range Sensor」
[論文誌 Vol.48, No.SIG9 (CVIM18), pp.21-38 (2007)]
Atsuhiko Banno 君(正会員) Katsushi Ikeuchi 君(正会員)
- 「並行プログラミング言語へのチャネル使用法宣言の導入」
[論文誌 Vol.48, No.SIG10 (PRO33), pp.101-113 (2007)]
須藤 崇君 小林 直樹君(正会員)
- 「Network-on-Chip における Fat H-Tree トポロジに関する研究」
[論文誌 Vol.48, No.SIG13 (ACS19), pp.178-191 (2007)]
松谷 宏紀君(学生会員) 鯉淵 道紘君(正会員)
天野 英晴君(正会員)

※上記()の会員情報は論文掲載時のものです。

平成 19 年度喜安記念業績賞の表彰

本会では、産業界における顕著な業績を顕彰するため、『業績賞』を設けておりますが、名誉会員故喜安善市先生のご遺族から寄贈いただいた資金により、本年度から、従来の『業績賞』を『喜安記念業績賞』として新設いたしました。

本賞は、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開発・改良、あるいは事業化プロジェクトの推進において、顕著な業績をあげ、産業分野への貢献が明確になったものを選定し、その貢献者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は、所定の「候補者推薦用紙」により推薦された候補のうちから、表彰規程および候補選定手続きに基づき、土井副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第 533 回理事会(平成 20 年 3 月)の承認を得て、下記の 3 件の業績の貢献者 14 名に決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 30 日に開催された第 51 回通常総会において、受賞者には、表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

- 「素因数分解専用ハードウェアの開発と RSA 暗号の安全性評価」
小暮 淳君(正会員) 下山 武司君
伊豆 哲也君(正会員) 鳥居 直哉君
笛木 俊介君
- 「携帯電話によるネットワーク型コーパス音声翻訳システムの構築」
中村 哲君(正会員) 隅田英一郎君(正会員)
清水 徹君(正会員) 葦苈 豊君
袋谷 丈夫君
- 「Web サービス技術の基盤確立と標準化、ならびに普及への貢献」
丸山 宏君(正会員) 羽田 知史君
根山 亮君(正会員) 中村 祐一君(正会員)

※上記()の会員情報は推薦締切時のものです。

平成 19 年度長尾真記念特別賞の表彰

本会では、第 20 代会長長尾真先生(京都大学名誉教授/国立国会図書館長)からご寄贈いただいた資金により、情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を表彰の対象として「長尾真記念特別賞」を設けております。本賞は、情報処理の学術・技術にかかわる分野でその研究開発に特に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される 39 歳までの研究・開発者を対象としています。

本年度の受賞者は「長尾真記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者の内から、表彰規程および長尾真記念特別賞候補者選定手続きに基づき、中島副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第 533 回理事会(平成 20 年 3 月)の承認を得て、下記の 3 君に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、5 月 30 日に開催された第 51 回通常総会において、表彰状および賞金が授与されました。

- 「Web マイニングによる社会ネットワーク抽出に関する研究」
松尾 豊君(正会員)
- 「ソフトウェア開発データに基づくプロジェクト管理の定量的支援」
門田 暁人君(正会員)
- 「分散協調通信システムの設計支援技術に関する研究」
山口 弘純君(正会員)

※上記()の会員情報は推薦締切時のものです。